



耳鼻いんこう科診察室より 耳よいな話



大人気コミックス「鬼滅の刃」の主人公、**竈門炭次郎**くん。彼は嗅覚に優れ、人が怒っているかどうかを匂いでわかったり、敵の動きを目で見なくても匂いを感じ取り戦うことができます。そんな能力があったらいいですよね？

もちろん**炭治郎**くんはフィクションの世界の人ですが、現実の日常会話でも「危険な匂いがする」と言いますね。まるで嗅覚で危険を察知しているかのように。ちなみに英語でも **smell danger** というそうですよ。

お菓子の匂いから子供のころの記憶が蘇ったという場面が「失われた時を求めて」という小説にあるそうです。匂いが記憶や感情を呼び覚ます現象を、この小説の作者にちなんで「フリースト効果」というそうです。これは脳の構造上、嗅覚の神経は記憶や感情を司る脳の部分に直接つながっているからではないかと考えられています。

ではその逆は…？**炭治郎**くんのように人の感情を嗅ぎ分けることができる？ 匂いに敏感な人は人の感情に対しても敏感だという研究や、恐怖感を与えられた人の服を他人に着せてみたところ、同じく恐怖感を感じたという研究があるそうです。

視覚や聴覚はそれぞれ光・音という物理的性質のものを眼や耳で感知します。対して嗅覚・味覚は化学的物質を感知します。ヒトは「匂った」と感じる時、匂いの素となる物質が空気の流れに乗って鼻の粘膜に達しています。先の研究の結果が本当であればですが、人は怒ったり、喜んだりするときに特有の匂い物質を発している可能性があります。ではどこから？

1978年に音の感覚器である内耳それ自身が音を発していることが発見されました。（もちろん聞き取れるほどの大きな音ではありませんが）「耳音響放射」といい、現在では耳の検査に応用されています。あくまで私の妄想ですが、鼻が感情に応じて匂いを発しているとしたら…面白いですね？